青森県立高等学校魅力づくり検討会議三八地区部会（第２回）概要

日時：令和５年１２月２１日（木）
１４：００～１６：３０
場所：八戸水産高等学校　八水高会館

＜出席者＞
三八地区部会委員
米内山　裕 地区部会長、齋藤　信哉 地区部会副会長、五十嵐　淳 委員、
久保　隆明 委員、佐藤　努 委員、竹花　和人 委員、富岡　朋尚 委員、
畑井　和人 委員

１　開会
外崎高等学校教育改革推進室長から挨拶があった。

２　事務局説明
地区部会における検討の進め方について
事務局から、資料２及び資料２の附属資料について説明した。

３　意見交換
地区部会における検討の進め方について学校・学科の充実の方向性（整理案）【たたき台】について
事務局から、押さえておくべき基本的な事項等として、これまでの会議資料について説明した。

＜これまでの会議資料＞
・7/7 検討会議（第２回）資料４「学校・学科・教育制度等の現状」
・8/7 第１分科会（第２回）資料４　附属資料①「各校のグランドデザイン」
資料４　附属資料②「各校の教育活動の状況」
・10/5 第１分科会（第４回）資料２「高等学校教育に関する意識調査（速報）」

Ⅰ　魅力ある高等学校づくりに向けた基本的な考え方
事務局から、資料３の全体構成と、「**１　検討に当たっての視点**」、「**２　求められる力と人財像**」及び「**３　県立高等学校教育の方向性**」について説明した。

委員から次のような意見があった。

（県立高等学校教育の方向性）
○　ＳＴＥＡＭ教育というのは、理数系を強化しようというものなのか。
→　文部科学省においては、知識をただ暗記するだけの従来の学習ではなく、各教科等での学習を実社会での問題発見・解決に生かしていくための教科等横断的な学習として位置付けている。

○　八戸市では、ＳＴＥＡＭ教育の推進のため、海洋開発研究機構（ＪＡＭＳＴＥＣ）と連携しながら、教材開発に取り組んでおり、その開発した教材については、全国に発信し、全国の小・中学校での活用を目指しているところ。八戸市内の小・中学校においても、このＳＴＥＡＭ教材を活用しながら、海洋教育を視点に取り組んでいるが、こうした取組が高校や大学まで、途切れることなく繋がっていけばよいと考えている。八戸工業大学では、ＳＴＥＡＭ教育を核にした講座を開設しているため、小学校から大学までの接続がスムースになるよう、八戸水産高校にも海洋教育や海洋科学といった視点を持った学科があればよいのではないか。

○　むつ工業高校の電気科においても、ＪＡＭＳＴＥＣと連携し、気温や風速などを測る装置に関する研究を行っており、こうした連携を広げていくことができれば、学校の魅力づくりにも繋がると思う。

○　高等学校教育に関する意識調査にもあるが、子どもたちが高校を選ぶとき、学力や保護者の意見を重視することが多いように感じている。しかし、自らの高校選択を後悔している人も実際にはいるので、高校の魅力化も大事だが、各校の魅力をしっかりと見える化し、子どもたちが「こういう学校に行きたい」、「こういう学校に行ったらこういうことができる」といったデザインを描けるような道筋を作ることが大事。

（求められる力と人財像）

○　社会で通用するための対応能力やコミュニケーション能力が必要であり、学校において身に付けさせることが大事。

（その他）

○　生徒の夢や志を県民が一丸となって支えるためのビジョンはもちろん大事だが、前提として、夢を実現する場が県内になければ、人口流出は免れないと思うので、そういった夢を実現できる場の創出も併せて考えていく必要がある。

○　高等学校教育に関する意識調査について、次回以降、対象者に高校卒業後５年未満の若者を追加した方が良いと思う。

○　小学校４年生以降、自己肯定感が下がっていくケースが多いといった結果が、ある研究論文で示されており、自分の意見が言いづらくなったり、自分の意見が否定されたりした経験に起因するものと推察している。自分のやりたいことや意見を言え、自発的に行動できるようになるきっかけづくりとして、アセスメントツールを活用し、自分の特性や強みなどの把握に繋げられるような時間を設定することが必要なのではないか。

Ⅱ　これからの時代に求められる学科等の充実

事務局から、資料３「**１　全日制課程　（１）普通科等**」について説明した。

委員から次のような意見があった。

（普通科等全体）

○　９ページの「⑥　その他」に、「普通科等においても、第１次産業に触れる機会をつくり、大学へ進学してからでも農業や漁業関係の仕事に興味を持ってもらえるようなきっかけづくりが必要」とあるが、県立高校の普通科の方向性としてこういったことを打ち出していくのか。八戸市は、第２次産業が盛んな地域であり、県全体の方向性として特定の産業についてのみ記載することはどうなのか。

→（事務局）資料３には、これまでに委員からいただいた多様な御意見を全て掲載しているところであり、最終的に本検討会議として教育長に報告するまでには、内容が精査されていくもの。

事務局から、資料３**「１　全日制課程　（２）職業教育を主とする専門学科」**と**「（３）総合学科」**について説明した。

委員から次のような意見があった。

（職業教育を主とする専門学科全体）

○　先日、職業教育を主とする専門学科の生徒と情報交換する機会があったが、現在学んでいる分野と卒業後の進路が全く異なる生徒が多い現状がある。要因として、「入りたい高校」ではなく「入れる高校」を選ぶといった考え方が未だにあることや、中学校と高校の接続がうまくいっていないことなどが考えられる。

○　普通科に比べて職業教育を主とする専門学科の方が、就職のイメージが強いため、保護者としては、とりあえず普通科に進学してほしいと思ってしまう。ただ、どの学科も魅力的であるため、高校を選択するに当たっては、子どもが将来何をしたいのかを、小・中学校段階から保護者や教員が子どもときちんと話し合うことが大事だと思う。

○　中学生の高校選択に資するよう、各校の魅力や目指す方向性を動画で発信するなど、情報発信を充実させていくことが大事なのではないか。また、普段の授業や高校生の研究発表の様子を見せる機会を作るなど、中学生だけでなく、保護者に対しても情報発信することができれば効果的だと思う。

○　あらゆる業種において、担い手不足が喫緊の課題となっており、人口減少が進んでいる現状を踏まえると、担い手となる人財の育成が急務であると考える。高校卒業後、即戦力となることは可能なのか。

○　高校においては、基礎・基本の習得に重点を置いているため、高校３年間の中で即戦力となるような技術者の育成は難しい。ただ、高校での学びや専門性を生かし、大学進学や就職をする生徒も多いと感じている。

○　生徒数の減少や私立高校の授業料実質無償化の影響もあり、第１次志望調査において、かつては人気のあった学校や学科であっても、１倍を切っている状況であり、中学生のニーズが変わってきていると感じる。職業教育を主とする専門学科において、基礎・基本を重視するのか、進学・就職のどちらに重きを置くのかなど、明確な方向性を打ち出すことができれば、それが魅力に繋がるものと考える。

（工業科）

○　現代の情報社会において求められている情報技術科が昨年度で閉科となったことは、三八地区にとって大きな出来事であったと捉えており、今後は十分に先を見据えながら、抜本的に改革していくことが必要だと考える。

　また、工業科においては資格取得に向けた取組が活発であるが、生徒はもちろん、教員も資格に関する勉強をしなければならず、授業や部活動、研修の時間も考慮すると、勤務時間内でこれら全てをこなすことは難しいため、働き方改革との一体的な実施が必要不可欠だと思う。

事務局から、資料３「**２　定時制課程**」及び「**３　通信制課程**」について説明した。

委員から次のような意見があった。

（通信制課程）

○　通信制課程は、進路変更の受入先のようなイメージがあると思うが、近年では、通信制課程の多様な学びを求めている生徒は多く、今後、通信制課程を希望する生徒は増えてくると思う。通信制課程の在り方について、保護者を含めて社会全体で考え、子どもたちの良さを伸ばしていくための選択肢として通信制課程もあるということを発信していければよいと思う。

Ⅲ　多様な教育制度

事務局から、資料３「**１　中高一貫教育**」、「**２　全日制普通科単位制**」及び「**３　総合選択制**」について説明した。

委員から次のような意見があった。

（中高一貫教育）

○　近隣に中高一貫校があることで刺激になる部分もあるが、市町村立中学校に入学しない生徒が一定数出てくることになるため、市町村立中学校に与える影響は少なからずあるものと考えている。

○　２２ページの「エ　拡充した場合の効果等」に、八戸高校への導入について言及されているが、仮に導入した場合、どのようなことが考えられるか。

→（事務局）中高一貫校においては、教育課程上、より発展的な内容を取り扱うことができたり、高校の内容の先取り学習が可能となったりするため、三本木高校を例に挙げれば、附属中学校入学生が選抜制の高い大学へ進学している状況もある。

○　２２ページの「エ　拡充した場合の効果等」に、進学実績を高めることを目的とした導入について言及されているが、進学実績の向上を目標にすると、いずれ行き詰まりを見せると思うので、進学実績ではなく、育成したい生徒像を明確化し、結果として、学びに対するモチベーションが上がり、進学実績も付いてくるような形にしないと、数字だけを追い求めるようなかつての時代に戻ってしまうと考える。

Ⅳ　各校の特色ある教育活動の充実に向けた取組等

事務局から、資料３「**１　特色化の推進**」、「**２　多様な主体との連携の推進**」及び「**３　小規模校における教育活動**」について説明した。

委員から次のような意見があった。

（特別支援教育等の推進）

○　２８ページの「ウ　不登校生徒への多様な学びの提供」とあるが、県内の小・中学校の不登校者数は過去最高となっており、県内のいじめの件数も増加している。魅力ある学校づくりも大事だとは思うが、せっかく入学しても卒業できない生徒が出るといった状況を作らないよう、まずは不登校やいじめへの対策について考えていく必要があるのではないか。

○　不登校の生徒が安心して学習できるよう、学校以外の場所における学びの継続が可能となるような環境づくりが必要ではないか。

Ⅴ　第２分科会での検討における留意事項等

委員からの意見はなし。

部会長から、三八地区部会の委員構成について、追加の必要の有無等を確認したが、委員からの意見はなかった。

３　閉会